

すまじる長中



2024年 新人看護師



ご挨拶

総務課長 磯部 洋一

日頃より当院の運営につきまして、ご理解、ご協力を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

令和6年度の診療報酬・介護報酬の同時改定に伴い、医療のデジタルトランスフォーメーション（医療DX）の推進、医療機関と介護施設の連携、ならびに医師の働き方改革が着実に進行しております。

医師の働き方改革については、医師の長時間労働が是正され、医師自身の健康とワークライフバランスの保持が期待されます。これは医療の質を維持し、将来にわたって持続可能な医療提供体制を確保することとなります。また、医師以外の職場でも人員不足を少しでも解消して、働きやすい職場づくりに努めて参ります。

また医療機関と介護施設との連携強化が重要視されています。今後よりいっそう地域包括ケアシステムと連携し、患者様の生活に配慮した医療・介護の推進が進められています。

これらの改革に取り組み、地域の皆様より信頼される病院づくりに尽力いたします。引き続き、皆さまとの連携を深め、中越地域の医療の充実に努めて参りますので、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

臨床研修医の体制について



昨年の5月に日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院でおきたSMA症候群^{*}という聞き慣れない疾患の16歳の患者さんが適切な治療がうけられず死亡したという事例について、今年の6月に同院から医療過誤として公表されました。患者さんが不幸な転帰をとられたことについて、ご冥福をお祈りするとともに、ご遺族の心痛はいかばかりかと拝察し、少しでも心の安らぎが得られますようにとお祈りいたします。

この事例について、多くの皆さんのが、各種報道でご覧になったかと思います。その際に「研修医の誤診」という取り上げ方をされ、医療関係者には、衝撃が走りました。しかし、最近では、事態は沈静化しております。

その理由としては、当直をしていた研修医に落ち度はないと、医療関係者がこぞって意見を表明し、事実その通りだからです。救急外来を担当した研修医は、即入院の必要はなく、平日の外来を受診することができる判断して、帰宅させ、その通りに患者さんは平日の専門外来を受診されているのですから、最低限の役割をはたしたわけです。問題点は、結果の如何に関わらず、救急外来で、研修医が上級医に相談するというシステムができていなかったことです。

そこで、研修医の救急外来への関与について、当院の状況に不安を抱かれることのないように、ご説明いたします。当院は、年間に4000件以上の救急車による救急患者の搬送を受け入れています。当番日には、20件以上、非当番日でも5件以上を受け入れています。多いときは、30分おきに救急車で患者さんが搬送され、1度に3台の救急車が重なることもあります。当番日の時

間外の救急外来は研修医2名+上級医(指導医)2名の4名と半当直の研修医1名で診療に当たります。手分けをして、患者さんの診療に当たり、初期対応の多くは、研修医が行い、問診や身体診察を行い、鑑別診断(どのような病態が考えられるか)を挙げ、上級医と検討します。必要ならば検査を追加し、結果を見て、鑑別診断を見直し、上級医と方針・対応について検討します。当院の研修医が、救急外来で診療した患者さんについては、必ず、指導医と検討しながら、方針を決定しております。

今後の医療を担う医師の養成のためにも、研修医に積極的に救急医療の現場に参加してもらうことは欠かせません。また、今年の4月から医師の働き方改革を推進することとなり、医師の労働に制限がかかりました。研修医にも協力してもらうことが多くなるわけです。

当院においては、地域医療を支えるために、研修医・上級医が一丸となって、努力する所存です。ご理解・ご協力を願いいたします。



記事担当

副院长 岩島 明

*SMA症候群とは:上腸間膜動脈(SMA)により、十二指腸の一部が圧迫され、消化物の通過障害が起こる疾患

もっと知りたい！部署のこと

7階東病棟 病棟紹介

7階東病棟は、脳外科、神経内科、呼吸器外科、血管外科、眼科の混合病棟となっています。病床数は50床です。昨年は入院患者様の平均年齢は72歳でした。当病棟の多くの患者様は、身体的疾患や薬剤、手術によってせん妄を呈する方が非常に多く、安全に対する配慮を心がけながら、治療を継続しております。当病棟には認知症看護認定看護師もあり、せん妄に関するカンファレンスや助言をいただきながら看護実践を行っています。

脳血管疾患の患者様は突然の発症で入院を余儀なくされ、身体的、精神的に後遺症が残る場合も少なくありません。早期からリハビリを開始し、早期の退院を目指すために入退院支援が重要です。受け持ち看護師が多職種と連携をとり退院調整を行っています。

呼吸器外科、血管外科、眼科の患者様は短期の入院期間で治療を行い、薬の指導、退院後の生活に不安がないよう指導しています。

病棟スタッフ全員で患者様に寄り添う看護を実践できるように、そして、病院の理念にある地域の中核病院として、心温まる医療の提供に努めていけるように心がけていきます。

7階東病棟 松本 昌子



栄養科
ワンポイント
コーナー



こまめな水分補給で
暑い夏を乗り切りましょう



今年も暑い夏がやってきます。この時期になると、熱中症のニュースをよく見ます。熱中症予防には水分補給が欠かせません。体の約60%が水分になりますが、高齢者では50～55%と体内の水分量は低下していますので、脱水に陥りやすいです。また高齢になると、脱水による喉の渴き、それに伴う飲水行動を引き起こす「口渴中枢」の機能が低下しています。潜在的な脱水を引き起こす原因もあるので、喉が渴いていなくても、こまめな水分補給を心がけてほしいです。大量に汗をかくと水分と塩分が失われてしまいます。水分だけでなく、汗で失われた塩分も補給するようにしましょう。

日本スポーツ協会では0.1～0.2%の食塩（100ml中食塩相当量0.1～0.2g）と糖質を含んだものを推奨していますので、大量に汗をかいた時は経口補水液やスポーツドリンクがいいと思います。日常的な水分補給としてスポーツ

ドリンクはおすすめできません。糖分が含まれ、過剰に摂取すると、糖尿病や肥満のリスクが高まるからです。日常的な水分補給は水や麦茶など糖分を含まない飲み物で十分だと思います。また食事からも水分補給ができますので、「十分な睡眠」、「バランスの取れた食事」、「こまめな水分補給」で今年の夏を乗り切りましょう。

記事担当：栄養科長 石原 到



病院からのお知らせ



『病院の理念』

地域の中核病院として
皆様の健康を守る為
良質で心温まる医療を提供し
予防・保健・福祉活動を
積極的に推進いたします



『患者の権利』

当院では、医療行為が患者さん中心に行われるべきものであると深く認識し、以下の五項目を患者の権利と制定し、これを日常の医療行為の規範とすることを宣言いたします。

1. 個人の尊厳を尊重される権利
2. 良質の医療を平等に受ける権利
3. 十分な説明を受ける権利
4. 自己決定の権利
5. 個人のプライバシーが守られる権利



中央看護専門学校 入学式

令和6年4月4日、入学式を挙行しました。68期生38名が矢尻校長より入学を許可され、中央看護専門学校での第一歩を踏み出しました。緊張感のある入学式でしたが、新入生の皆さんからはこれから始まる新たな生活へ期待を寄せる様子がうかがえました。本学での学びを通して看護師としての自覚と責任をもち、3年後の看護師国家試験合格を目指します。



長岡中央総合病院 公式インスタグラム

nagachu.kouseiren
で検索♪



院内の様子や各部署の紹介など
様々な情報を発信しております！
ぜひお気軽にフォローを
よろしくお願いします！

右記の QR コードから ➔

